

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190500302		
法人名	株式会社 トリア		
事業所名	グループホーム トリア吉野町		
所在地	岐阜県各務原市蘇原吉野町3丁目43番1		
自己評価作成日	平成30年1月10日	評価結果市町村受理日	平成30年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/i/ndex.php?act=on_kouhyou_detail_2017_022_kani_tru&sl_gvosyoCd=2190500302-00&PrEfCd=21&Ver:si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成30年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「Always Say Yes!」の基本方針のもと、利用者様本人の意向をできる限り叶えられるよう、常に利用者様、ご家族様の心に寄り添い、全職員が一生懸命考え柔軟な対応をしている。
 ・毎日、少しでも楽しく笑顔で「自由に暮らせる家」を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日頃から「Always Say Yes!」の基本方針で、どんな場合も「Noではなく、まずはやってみよう」と利用者が望むことを第一にしたケアを提供している。利用者の希望はできるだけ叶うように、一泊旅行や卓球教室にも職員が付き添っている。事業所がつの住処となるように、仏壇へのお供えやお参り、ハムスターの飼育を支援している。医療依存度の高い肺・腎疾患のある人も受け入れ、医師や食材提供業者からの助言や連携を得て、生活時間の過ごし方や食事にも配慮している。開設後、2年目を迎え試行錯誤しながら、地域とのつながりも少しずつ広がり事業所の理解を深めている。管理者は職員個々に声かけてコミュニケーションを図り、職員の意見も否定せず受け止めて、全員で前進できる事業所を目指して努力している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

1階

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で地域との交流を大切に健康管理を行いつつ、個人の意思を尊重して柔軟性のあるサービス提供に努めるという理念に基づき、職員の目に止まる所に貼り、確認をして業務に当たっている。	日頃から「Always Say Yes!」を心がけ、どんな場合もNoと言わず、利用者が望むことを第一にしたケアを提供している。業務内で職員同士が確認し合ったり、管理者が理念にあっているかを気づくと注意したりしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事にまずは職員が参加させていただき、少しずつ前進しているが、利用者様の参加へはまだ至っていない。	散歩時の会話やボランティアとの関わり等で、少しずつ住民と触れ合う機会を増やしている。自治会報を届けてもらい自治会運営の喫茶の集まりや認知症カフェに参加しているが、日常的な交流には至っていない。	開設後2年目を迎え自治会長の協力も得て、徐々に事業所の存在や理解が深まりつつある状況ではあるが、更に住民と関わる機会を増やす努力が望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事等へは職員のみでの参加にとどまっているが、運営推進会議にて自治会長様等より情報を得たり、施設の事を理解していただけるよう交流をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況や行事の取り組みについて報告し、意見を頂いたり、施設サービスへの質問等を頂き、よい交流の場となっている。また、その意見をもとにサービス向上を目指している。	会議に合わせて家族会を行い、家族が参加しやすくしている。市職員から書類の記録の大切さや書き方の助言を得て様式に取り入れた。自治会長から地域行事の情報を得て、利用者が参加できるようになった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所、包括支援センターの担当者の方へ報告・相談を行い、指導や助言を頂いている。	日頃から提出書類や低所得者に対する事等の不明なことは随時相談し、実情を伝えながら連絡を蜜にしている。市主催の施設部会の会議や懇親会等に参加し、情報交換して連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃から利用者様一人一人の行動観察を行うことで可能な活動を見守ること、必要な介助を行う事、センサーベッドの活用、巡視体制を整えて拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束や虐待のマニュアルを基に、職員がレポート提出し理解を深める勉強会をしている。外へ行く人には職員が一緒に付き添い、他の職員が車で迎えに行く時もある。「ちょっと待って」と言う言葉遣い等は使わず、拘束しないケアに取り組んでいる	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の中で、虐待について学習し、日頃スタッフ同士で抱えているケアの悩み等を共通することでスタッフのストレス緩和に努め虐待につながらないように努めている。		

グループホームトリア吉野町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に補助人制度を利用されている利用者様がいるため、その際に学ぶことがある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書をもって説明し、質問等にも応対しながら理解・納得をしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見をいただいた時には、内容を記録や申し送りにて職員に周知している。苦情や外部への発信が必要な時には運営推進会議の場を活用し報告している。	家族会で利用者との食事会や暮らしをスライドショーで見てもらい、家族と交流をしながら意見を聞いている。面会時に聞いた意見は職員に伝え対応している。来訪が少ない家族には手紙にて意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議には統括や管理者も出席し、職員ひとりひとりの意見を聴くよう努めている。また、普段より職員一人一人に声をかけコミュニケーションを図り意見交換をしている。	管理者は出退勤時に自ら職員個々に声をかけて、体調を尋ね意見を言いやすい雰囲気になっている。職員の意見から業務分担を見直し、スムーズな業務につなげた。ケアの方法を共有しながら対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年次昇給、資格所持者には資格手当を支給するなどその職員に応じて評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に順次、参加してもらっている。また、毎月の職員会議では、必要に応じて内部研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の施設部会や懇親会に参加し同業者との交流や情報交換を行っている。		

グループホームトリア吉野町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人の様子を見に行き、入居確定時にご本人の施設生活への思いを確認するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の段階からご家族の思いに声に耳を傾け、納得・安心されるまで話し合いの機会を設け確認するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思いに耳を傾け、その方の現状に合ったサービス検討を各職種の意見も踏まえながら柔軟な対応ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的な家事(掃除や洗濯たたみ、食後の片づけ等)、またはカレンダーめくり等、利用者様ができる事を役割として提供し職員と一緒にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の意向をご家族へ伝えることで、可能な範囲でご家族で叶えることはお願いをしている(外食、買い物、洗濯等)。また面会時にご家族と居室やリビングにて談話する機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に確認の上、ご本人の友人が面会に見え一緒にお茶を飲んだり、馴染みの喫茶店やスーパーへ出かけたりしている。	友人に花を生けに来てもらい、喫茶店と一緒に出かけてもらっている。家族の協力を得て、買い物・外食や墓参に行く人もいる。手紙の差し出しや電話の支援をして、馴染みの関係が途切れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介に入り空いた時間にリビングで談笑されている。また、声かけにて毎日、体操やレクリエーションと一緒にし利用者様同士がコミュニケーションを取れる様にしている。		

グループホームトリア吉野町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取り介護にて亡くなられたご家族が、ホームに遊びに来られたり、他施設に変わられたご家族より問い合わせの際は親身に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でご本人の思いに耳を傾け、また、表情や行動等も観察している。必要に応じて、ご家族からも話を聞いたり情報収集している。	利用者の居室にて、または夜間にゆっくりと話を聞き、思いを把握している。筆談で聞く時もある。その人の行動や表情等を見て推測し、食べ物の広告を見ている人には、さりげなく提案し買い物に行く場合もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用前に情報収集し、職員に周知している。また、その後の情報は申し送りや職員会議で報告し共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に気付いたことや変化等を記録するようにし、それを読んで各スタッフ把握している。また、申し送りノートも活用し状況の変化など一人が得た情報であっても職員全員が共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場スタッフの意見やご本人、ご家族の声をケアマネージャーが総括してその都度見直しを行ないながら介護計画を作成している。	医師の意見も参考に利用者や家族の意見が叶うように介護計画を作成している。介護記録の上段に介護計画の要点を記載し、意識付けできるよう工夫している。ユニット会議で話し合い、必要時は見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にキーワード欄をつくり、スタッフの気づきや利用者様の様子が少しでも見やすいものとなるよう努めて記入している。また、必要時は申し送りノートにも記入し職員が情報を共有し介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出張理美容やハンドマッサージ、病院受診や短時間の外出など希望に合わせた支援を行っている。		

グループホームトリア吉野町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まだ地域への行事等へ参加できていないため、今後の課題として取り組んでいきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本、嘱託医による往診を受けているが、希望があれば他科の受診が出来るよう対応している。	訪問診療がある協力医に変更する人も多いが、かかりつけ医を受診時は、連絡ノート又は書面にて情報を得ている。専門医受診時に家族の協力が難しい時や車イスの利用者は、職員が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の体調管理、服薬状況、状態観察など医療面の情報や、その他気づいた点も医療面等に報告し看護師の判断で適切に受診等を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	まだ入院したケースはないが、入院した際は地域医療連携室等に速やかに連絡を取り、現状の確認や退院前の調整を行っていききたい。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日々の生活の中で持病の症状等が悪化したり、変化のあった際は早めの家族連絡を心掛けている。今後、終末期に向けた方針を主治医・ご家族様・職員で話し合い、全職員に周知するよう努める。	利用者や家族の意向で看取りにも対応している。重度化し状態に合わせて、家族の思いを聞きながら医師から説明してもらっている。穏やかに苦痛なく過ごしてもらえるように、記録の仕方や身体状況の確認の方法を統一し方針を共有しながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	電話近くに緊急時フローチャートを置き、すぐ確認できるようにしている。マニュアルを作成し事態に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域を交えた体制はまだ構築できていない。備蓄としてペットボトルの水を置いている(2ℓ×6本7ケース)	通報・消火・避難訓練を時間計測し、問題点や課題の話し合いをして消防署の助言も得ている。業務日誌に避難誘導区分(担送・護送・独歩)で人数を記載している。夜間想定訓練や住民の協力が得られていない。	今年度は1ユニットから2ユニットとなり、2階からの避難を重視した訓練ではあるが、夜間の人員体制での訓練実施と住民の協力も得る働きかけが望まれる。

グループホームトリア吉野町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応については、入職時のオリエンテーションにて周知し、適宜、職員会議の場で話し合い注意している。	大声で特定の個人の話や排泄の誘導をせず、強い口調での言葉遣いにも注意している。申し送り時は、利用者名を言わず居室名で伝達している。入浴時は肌が露出しないようにタオルを掛ける配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の声に耳を傾け、日々の生活の中で自己決定できる事はして頂ける様、促し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や体調等に考慮して、可能な範囲で希望に添う様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣時や入浴時の洋服等をご本人に選択していただいている。また、ピン止めやカチューシャ等お好みに合わせて使用されている。月に2回、出張理美容を希望者には利用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は取り分けをしていただいたり、おしぼりを作っていたり分担任して一緒に行ない、食後は食器を重ねたり、洗った食器を拭いてくださる等片づけも職員と一緒に協力して行っている。	利用者ができることは手伝ってもらい、季節料理や希望の献立を入れた食事に行っている。お好み焼き・恵方巻き・いなり寿司を作ったり、誕生日には好きなメニューで楽しみながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは食材配達業者の立てたメニューを活用している。水分量が少ない時は、こまめに声をかけし促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	まずはご本人様に行っていたり、その時の能力や状態、意欲に合わせ介助が必要な場合は介助にて行っている。		

グループホームトリア吉野町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、いつもより間隔が長かったり、行かれていない時は、必要に応じて声かけを行ない、誘導している。	立位が困難な人は二人介助にて、夜間トイレ排泄を基本としている。その人に合わせてパッドの種類を変えたり、誘導時間を見計らって声かけしたりしている。オムツからリハビリパンツになった人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を確認し数日、排便がない場合は主治医・看護師に相談し対応している。またヨーグルトを食べていただいたり、体操にて運動するよう促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に沿って、毎日や一日おき、一番風呂や夕食前等一人一人に合わせて入浴していただいている。入浴が苦手な方も、ゆっくりお話をしながら安心して入浴していただける環境を作っている。	毎日や夕食後に入りたい人の希望に応じている。希望の入浴剤やボディソープを使い、一人ずつ湯を入れ替えている。職員と会話が弾み楽しい時間になっている。嫌がる人が他の利用者の声かけで入ることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中のほどよい活動をすすめ、夜間、良眠できるように促している。また、それぞれに就寝時間を決めてみえるため、それに合わせた就寝介助を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	詳細までの理解は今後の課題であるが、誤薬、未薬防止のため、内服の薬の数等は把握し、服薬介助時はダブル・トリプルチェックをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きなことばかりではなく、苦手なことも皆さんでやることに楽しみを見出して頂けるよう同じレクリエーションでも提供方法を工夫して行うよう心掛けている。また、ご家族様の協力もあり、レク用品等を活用して楽しめる時間を提供することを心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	まだまだ回数は少ないも、買い物、ドライブ、散歩、喫茶店など希望に合わせて外へ出る機会を少しずつ作っている。	利用者の希望はできるだけ叶うように、一泊旅行にも職員が付き添っている。希望があれば、コンビニや卓球教室にも出掛けている。散歩を兼ねた買い物・喫茶店・公園や花見等に車イスの人も一緒に出掛けている。家族に依頼する場合もある。	

グループホームトリア吉野町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、買い物に出かけた際は、職員が所持し会計している。自己にて払える方には、その時だけ財布をお渡しし、そこから支払っていただく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望があればご家族様に電話をしご本人様と話をさせていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節に合わせた飾りをして季節感を楽しんでもらっている。	季節の壁面飾りや飾り物で家庭的な雰囲気、生活感が出るようにしている。観葉植物を置き、ソファに腰掛け落ちて新聞や雑誌が読めるように席の配置も工夫している。日に3回の換気・室温やTVの音量にも注意し、快適に過ごせる配慮をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファを設置し、そこでのんびり過ごしたり、食事以外はリビングの椅子に自由に座り、そこで集まっている方同士と一緒に談話し過ごせる空間ができている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から可能な範囲で使い慣れたものを持ってきていただき、過ごされている。	使い慣れた枕・毛布・鏡台・時計・イス等を持ち込み、縫いぐるみ・家族写真・誕生カードや色紙等で飾り、自分らしい居室にしている。仏壇にお仏飯を供えていたり、ハムスターを飼育したりしている人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員がその方の心身状態を把握し、できることを小さなことからできるように環境を整えるように努めている。安全に事故なく日常動作が送れるよう見守っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190500302		
法人名	株式会社 トリア		
事業所名	グループホーム トリア吉野町		
所在地	岐阜県各務原市蘇原吉野町3丁目43番1		
自己評価作成日	平成30年1月10日	評価結果市町村受理日	平成30年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/21/i/index.php?act=on_kouhyou_detai&2017_022_kani%20true&gvsvoCd=2190500302-00&PrEfCd=21&Ver:si onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成30年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・「Always Say Yes!」の基本方針のもと、利用者様本人の意向をできる限り叶えられるよう、常に利用者様、ご家族様の心に寄り添い、全職員が一生懸命考え柔軟な対応をしている。 ・毎日、少しでも楽しく笑顔で「自由に暮らせる家」を目指している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

2階

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で地域との交流を大切に健康管理を行いつつ、個人の意思を尊重して柔軟性のあるサービス提供に努めるという理念に基づき、職員の目に止まる所に貼り、確認をして業務に当たっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事にまずは職員が参加させていただき、少しずつ前進しているが、利用者様の参加へはまだ至っていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事等へは職員のみでの参加にとどまっているが、運営推進会議にて自治会長様等より情報を得たり、施設の事を理解していただけるよう交流をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況や行事の取り組みについて報告し、意見を頂いたり、施設サービスへの質問等を頂き、よい交流の場となっている。また、その意見をもとにサービス向上を目指している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所、包括支援センターの担当者の方へ報告・相談を行い、指導や助言を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃から利用者様一人一人の行動観察を行うことで可能な活動を見守ること、必要な介助を行う事、センサーベッドの活用、巡視体制を整えて拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の中で、虐待について学習し、日頃スタッフ同士で抱えているケアの悩み等を共通することでスタッフのストレス緩和に努め虐待につながらないように努めている。		

グループホーム トリア吉野町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に補助人制度を利用されている利用者様が いるため、その際に学ぶことがある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や 家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行 い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書をもって説明し、質問 等にも応対しながら理解・納得をしていただい ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員な らびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	意見をいただいた時には、内容を記録や申し送 りにて職員に周知している。苦情や外部への発 信が必要な変については運営推進会議の場を 活用し報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議には統括や管理者も出席し、職 員ひとりひとりの意見を聴くよう努めている。ま た、普段より職員一人一人に声をかけコミュニ ケーションを図り意見交換をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	年次昇給、資格所持者には資格手当を支給する などその職員に応じて評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくこと を進めている	外部研修に順次、参加してもらっている。また、 毎月の職員会議では、必要に応じて内部研修を 実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	市内の施設部会や懇親会に参加し同業者との 交流や情報交換を行っている。		

グループホーム トリア吉野町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人の様子を見に行き、入居確定時にご本人の施設生活への思いを確認するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の段階からご家族の思いに声に耳を傾け、納得・安心されるまで話し合いの機会を設け確認するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思いに耳を傾け、その方の現状に合ったサービス検討を各職種の意見も踏まえながら柔軟な対応ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的な家事(掃除や洗濯たたみ、食後の片づけ等)、またはカレンダーめくり等、利用者様ができる事を役割として提供し職員と一緒にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の意向をご家族へ伝えることで、可能な範囲でご家族で叶えることはお願いをしている(外食、買い物、洗濯等)。また面会時にご家族と居室やリビングにて談話する機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に確認の上、ご本人の友人が面会に見え一緒にお茶を飲んだり、馴染みの喫茶店やスーパーへ出かけたりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介に入り空いた時間にリビングで談笑されている。また、声かけにて毎日、体操やレクリエーションと一緒にし利用者様同士がコミュニケーションを取れる様にしている。		

グループホーム トリア吉野町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取り介護にて亡くなられたご家族が、ホームに遊びに来られたり、他施設に変わられたご家族より問い合わせの際は親身に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でご本人の思いに耳を傾け、また、表情や行動等も観察している。必要に応じて、ご家族からも話を聞いたり情報収集している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用前に情報収集し、職員に周知している。また、その後の情報は申し送りや職員会議で報告し共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に気付いたことや変化等を記録するようにし、それを読んで各スタッフ把握している。また、申し送りノートも活用し状況の変化など一人が得た情報であっても職員全員が共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場スタッフの意見やご本人、ご家族の声をケアマネージャーが総括してその都度見直しを行ないながら介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にキーワード欄をつくり、スタッフの気づきや利用者様の様子が少しでも見やすいものとなるよう努めて記入している。また、必要時は申し送りノートにも記入し職員が情報を共有し介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出張理美容やハンドマッサージ、病院受診や短時間の外出など希望に合わせた支援を行っている。		

グループホーム トリア吉野町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まだ地域への行事等へ参加できていないため、今後の課題として取り組んでいきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本、嘱託医による往診を受けているが、希望があれば他科の受診が出来るよう対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の体調管理、服薬状況、状態観察など医療面の情報や、その他気づいた点も医療面等に報告し看護師の判断で適切に受診等行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	まだ入院したケースはないが、入院した際は地域医療連携室等に速やかに連絡を取り、現状の確認や退院前の調整を行っていききたい。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日々の生活の中で持病の症状等が悪化したり、変化のあった際は早めの家族連絡を心掛けている。今後、終末期に向けた方針を主治医・ご家族様・職員で話し合い、全職員に周知するよう努める。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	電話近くに緊急時フローチャートを置き、すぐ確認できるようにしている。マニュアルを作成し事態に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域を交えた体制はまだ構築できていない。備蓄としてペットボトルの水を置いている(2ℓ×6本7ケース)		

グループホーム トリア吉野町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応については、入職時のオリエンテーションにて周知し、適宜、職員会議の場で話し合い注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の声に耳を傾け、日々の生活の中で自己決定できる事はして頂ける様、促し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や体調等に考慮して、可能な範囲で希望に添う様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣時や入浴時の洋服等をご本人に選択していただいている。また、ピン止めやカチューシャ等お好みに合わせて使用されている。月に2回、出張理美容を希望者には利用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は取り分けをしていただいたり、おしぼりを作っていたり分担して一緒に行ない、食後は食器を重ねたり、洗った食器を拭いてくださる等片づけも職員と一緒に協力して行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは食材配達業者の立てたメニューを活用している。水分量が少ない時は、こまめに声をかけし促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	まずはご本人様に行っていたり、その時の能力や状態、意欲に合わせ介助が必要な場合は介助にて行っている。		

グループホーム トリア吉野町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、いつもより間隔が長かったり、行かれていない時は、必要に応じて声かけを行ない、誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を確認し数日、排便がない場合は主治医・看護師に相談し対応している。またヨーグルトを食べていただいたり、体操にて運動するよう促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に沿って、毎日や一日おき、一番風呂や夕食前等一人一人に合わせて入浴していただいている。入浴が苦手な方も、ゆっくりお話をしながら安心して入浴していただける環境を作っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中のほどよい活動をすすめ、夜間、良眠できるように促している。また、それぞれに就寝時間を決めてみえるため、それに合わせた就寝介助を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	詳細までの理解は今後の課題であるが、誤薬、未薬防止のため、内服の薬の数等は把握し、服薬介助時はダブル・トリプルチェックをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きなことばかりではなく、苦手なことも皆さんでやることに楽しみを見出して頂けるよう同じレクリエーションでも提供方法を工夫して行うよう心掛けている。また、ご家族様の協力もあり、レク用品等を活用して楽しめる時間を提供することを心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	まだまだ回数は少ないも、買い物、ドライブ、散歩、喫茶店など希望に合わせて外へ出る機会を少しずつ作っている。		

グループホーム トリア吉野町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、買い物に出かけた際は、職員が所持し会計している。自己にて払える方には、その時だけ財布をお渡しし、そこから支払っていただく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望があればご家族様に電話をしご本人様と話をさせていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節に合わせた飾りをして季節感を楽しんでもらっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファを設置し、そこでのんびり過ごしたり、食事以外はリビングの椅子に自由に座り、そこで集まっている方同士と一緒に談話し過ごせる空間ができている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から可能な範囲で使い慣れたものを持ってきていただき、過ごされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員がその方の心身状態を把握し、できることを小さなことからできるように環境を整えるように努めている。安全に事故なく日常動作が送れるよう見守っている。		